

海外への学びの輪がさらに広がっています

開館以来、海外から多くの若者が資料館を訪れ、イタイタイ病について学んでいます。

5月26日（金）、アメリカのオハイオ州立大学公衆衛生学科の学生ら24名が来館しました。

生徒らは英語版のガイダンス映像を視聴した後、音声ガイドを用いて資料館内を見学。また、若林カズ子氏の語り部講話を通訳を介して聴講し、日本語と英語という言葉の違いはあるものの、イタイタイ病の恐ろしさとその克服の歴史、環境と健康の大切さについてしっかりと理解を深めていました。



展示室を見学している学生ら



語り部・解説ボランティア研修会を開催しました

7月22日（土）に開催し、語り部ら11名に参加いただきました。

前半は、元富山市立富山外国語専門学校教授の神保正氏を講師として、海外からの来館者とのコミュニケーションを図り、今後の活動に役立てていただくため、簡単な英会話を学びました。

語り部らは、最初は発音に戸惑う場面も見受けられましたが、次第に流暢になり、最後は英会話を楽しんでおられるようでした。

後半は、鏡森館長より医学講座として、「イタイタイ病は何故に女性に多いのか」をテーマに講演がありました。

このように、語り部講話やボランティア活動を含めた資料館運営に役立つ有意義な研修会となりました。



資料館の動き

これまでの出来事（平成29年度上半期）

- 平成29年
- 4月29日（土・祝）～5月7日（日） 春の特別企画展 『見て触って考えるイタイタイ病講座・語り部リレー講話』
 - 7月22日（土） 語り部・解説ボランティア研修会
 - 7月28日（金）～29日（土） 夏休み自由研究講座 ～イタイタイ病を学ぼう～
 - 8月 4日（金） イタイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー
 - 8月17日（木） イタイタイ病資料館活用研修会

これからの行事予定（平成29年度下半期）

- 10月 7日（土） 四大公害病の語り部講話を聴く集い ～語り部による伝承会～
- 11月 3日（金・祝） 読み聞かせと書籍の紹介・解説の集い
- 11月23日（木・祝） イタイタイ病資料館講演会

- 平成30年
- 2月18日（日） イタイタイ病を考える県民フォーラム

ガイダンス映像の貸出を行っています！

資料館では、多くの方々にイタイタイ病の発生や被害の状況、克服の歴史等について理解していただくため、わかりやすくまとめた「ガイダンス映像」（DVD・放送時間は約15分）を希望される学校や団体へ貸し出しています。

資料館見学前の事前学習として是非ご利用ください。

貸出条件等、詳しくは資料館までお問い合わせください。



資料館だより

2017年 秋 号

- 春の特別企画展開催……………2
- 語り部コーナー……………2
- 夏休みに開催した行事を紹介！ 3
- 資料館インフォメーション……………4



4月29日～5月7日

春の特別企画展

『見て触って考えるイタイタイ病講座・語り部リレー講話』開催！！



講座① 富山大学大学院医学薬学研究部 井村穂二教授による解説 「イタイタイ病ってどんな病気？」



講座② 病理標本をバーチャルスライドで見学



病理学的解説パネルの展示



語り部リレー講話（青島 明生氏）

語り部講話の聴講者を募集しています

資料館を団体（原則10名以上）で見学される場合には、事前に申込みいただくと、イタイタイ病に関して貴重な体験をされた語り部さんの講話を聴くことができます。（来館される3週間前までにお申し込みください。）詳しくは資料館ホームページをご覧ください。

メールマガジン 【登録者募集中】

月に1回、資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は、次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaitai-dis.jp】

小学生のイ病伝承者

富山県立イタイタイ病資料館 館長 鏡森 定信



今夏の猛暑の中、「夏休み自由研究講座～イタイタイ病を学ぼう～」と「イタイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー」には、県内各地から例年になく多くの小学生と保護者の方々にご参加いただきました。この二つの行事は、資料館開館以来毎年実施してきていますが、当初は富山市内の小学校から少人数の参加でした。

その後、徐々に参加者が増え、今年は人数増もさることながら、富山市以外からの参加者が半数近くまでになりました。両陛下やG7環境大臣の来館、そして続けてきた「お知らせ」が影響していると思われませんが、開館以来、この5年で、県下の小学校の70%が1度は来館しており、県下の小学校にイ病の学びが広がったことも大きな要因と考えています。

この5年間の小学校からの来館者の感想文をまとめたところ、例えば環境と健康について、もっと学びたいとの回答が20%余りに達しています。小学生の皆さんの中にイ病の学びを深め、イ病を伝える所作が広がることを願います。

「見る・触る・聴く」をポイントとして イタイイタイ病について考えました。



4月29日(土・祝)から5月7日(日)まで、春の特別企画展を開催しました。

開館記念日である4月29日(土・祝)に開催した『見て触って考えるイタイイタイ病講座』では、富山大学大学院医学薬学研究部の井村穰二教授より、イタイイタイ病の症状として、カルシウム不足により骨折しやすくなるなど説明があり、参加者は真剣に耳を傾けていました。

その後、参加者30名が2班に分かれ、病理標本をバーチャルスライドで見たり、健常者と骨粗しょう症になった患者の各々の骨や腎臓の模型を実際に触ったりしました。参加者の中には、小中学生の姿もあり、骨の重さの違いに非常に驚いていたのが印象的でした。



骨の模型を触る参加者



語り部リレー講話の様子(小松 雅子氏)

また、4月30日(日)から5月7日(日)まで開催した『語り部リレー講話』では、8名の語り部がイタイイタイ病で苦しんだ家族や当時の暮らしの様子、裁判中の出来事などについて交代で語っていただきました。

期間中は、延べ180名と多くの方々に聴講いただき、講話後、語り部に熱心に質問をしておられる参加者の姿もあり、イタイイタイ病を風化させてはならないという思いを強く持ていただけたのではないのでしょうか。

イタイイタイ病を語り継ぐ

資料館の語り部さんです

資料館の語り部の方をシリーズで紹介します。

今回は、資料館の開館から5年間、語り部をされている若林カズ子さんにこれまで活動されてきて、うれしかったことや今後伝えていきたいことについて聞いてみました。



若林カズ子さん(82歳)

若林さんは、1957年(昭和32年)に現在の富山市婦中町に嫁いでこられました。夫の祖母であるセキさんが、イタイイタイ病の患者でした。

セキさんと過ごした11年間の思い出をハキハキと語られる若林さん。時折、ハンカチで涙を拭かれる場面もあり、被害の実態が聴講者の心に深く刻み込まれています。

Q1 これまで活動されてきて、うれしかったことは?

- ・私の話を涙して聞いてくださること。そのときには語り部としてやりがいを感じる。
- ・見学された小学生からお礼の手紙をいただいたとき。



語り部講話の様子

Q2 語り部として今後、伝えていきたいことは?

- ・痛みに耐えながらもいろいろなことを教えてくれたセキさんが苦しんだ事実を、元気な体が続く限り、伝えていきたい。



夏休みに開催した行事を紹介します!

①次代を担う子どもたちがイタイイタイ病や環境の大切さについて学びました。

自由研究講座～イタイイタイ病を学ぼう～

2日間で県内の小学1～6年生とその保護者58名が参加しました。

前半は、語り部の高木良信氏(患者家族、イタイイタイ病対策協議会顧問)より、実体験を踏まえたお話を聞き、公害の悲惨さと被害の根絶に向けた取組みについて学びました。また、展示室内にヒントが記載されているワークシートクイズでは、親子であちこちのコーナーに移動しながら、協力して回答していました。

後半では、富山市科学博物館の朴木英治氏を講師として、川の水質を調べる実験を行いました。参加者は検査キットを使用して神通川・四ツ谷川・生活排水(米の研ぎ汁)の3種類の水を計測し、実験を通して清流を維持することの重要性を学びました。



高木良信氏による展示解説



川の水質を調べる実験

【開催日時と内容】7月28日(金)・29日(土) <13:30～16:30>

- ①高木良信氏による展示解説・質疑応答
- ②ワークシートによるクイズに回答
- ③川の水質を調べる実験(講師:富山市科学博物館 朴木英治氏)

参加者の声

- ・イタイイタイ病の怖さと大変さに気付くことができました。(小学5年生 男子)
- ・高木良信さんのお話は、やさしい口調であるものの、ご家族としての深い気持ちがあるのだろうと心に響きました。(30歳代保護者 女性)
- ・親子で参加させていただき勉強になりました。自由研究に是非活用したいです。(40歳代保護者 女性)

イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー

県内の小学5～6年生とその保護者ら21名が参加しました。

参加者は、資料館展示室やカドミウム汚染から復元した水田を見学後、神岡鉱業株式会社へと向かい、和佐保たい積場やシックナー(排水処理施設)、排水管理センターを見学しました。特にシックナーでは、工場排水に含まれるカドミウムなどの重金属と水を分離して処理する仕組みなどについて、会社からの説明を興味深そうに聞いていました。

最後は、富山太陽光発電所PR館で太陽光発電の仕組みや再生可能エネルギーについて学び、バスツアーを終えました。



資料館の展示見学



【開催日時と内容】8月4日(金) <8:00～17:00>

- ①資料館→②復元田(富山市塩地区)→③神岡鉱業株式会社→④富山太陽光発電所PR館→⑤資料館

参加者の声

- ・イタイイタイ病に関連する施設などを見ることができてよかったです。(小学5年生 女子)
- ・富山県の負の歴史を学ぶ有意義なツアーでした。(40歳代保護者 男性)



復元田の見学

②イタイイタイ病の教訓を子どもたちにしっかりと伝えていくために

教員向けの「イタイイタイ病資料館活用研修会」

県内の小・中学校、特別支援学校10校15名の教員が参加しました。

教員らは、ガイダンス映像視聴及び展示室の見学後、大上久彦氏の語り部講話を聴講し、患者であった祖母をお世話した話など真剣に耳を傾けていました。

その後、富山市立五福小学校の清水卓教諭より、資料館を活用した授業実践の紹介のほか、射水市立大門中学校の前教頭で今年3月に完成した中学生向け副読本の編集委員を務めた竹脇久雄氏より、副読本の制作意図と活用方法についての解説がありました。

最後に、富山国際大学子ども育成学部の水上義行教授より、イタイイタイ病を教育に位置づける意義等について指導や助言をいただきました。

今後も、資料館では、1人でも多くの現場の先生方に資料館の存在、そして学習できる内容を知っていただき、授業に活用していただくための取組みを進めていきます。



富山市立五福小学校 清水卓 教諭による発表



射水市立大門中学校 竹脇久雄 前教頭による発表